

極端な貧困をなくすための方法

ポール・スターン

概要

年齢を問わず、貧困は人を苦しめるものですが、このことについては最近、多くの人道主義の立場の人や、経済学の専門家によって考えられるようになってきました。

貧困をなくすための幾つもの方法が、これまで考えられ試みられてきました。共産主義、アメリカの大統領による貧困との戦い、アメリカの援助計画、世界銀行の融資、およびその他の計画が試みられてきましたが、今のところ、これといった決め手はありません。

近年および現在の経済学の理論のいくつかを考察した結果、これらの理論は現実の問題の解決には何ら効を奏さないことがわかりました。事実、世界的な規模でこの問題と直接関わった専門家達は、完全に失敗であったことを認めています。

バハイの見解は、経済上の問題には精神的な解決策があるはずであり、極端な富と貧困は排除されねばならないというものです。アブドル・バハは、解決の方法として農村をその手始めとす一つの案を示唆しておられます。これがひとたび村部で確立されたら、それを都市部にも旨く適合させることが可能でしょう。

この案は、経済学者によって検討されてきた、いわゆる負の所得税の基礎とも考え得るものです。しかしながらアブドル・バハの案には、働くことができるのに怠惰なものは恩恵の対象から除外するなど、大きな相違があります。又、富める人々の収入に上限を設けています。この計画は、地方ごとに実施され、収支の概略が明らかになれることになります。

公共の医療サービスを向上させ、義務教育が制定されなければなりません。男女の平等ということと同様、この過程の一つとして、子供の養育における母親の重要性があげられます。